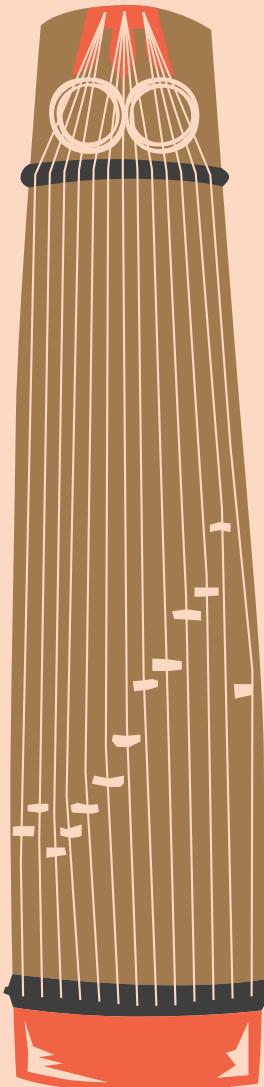
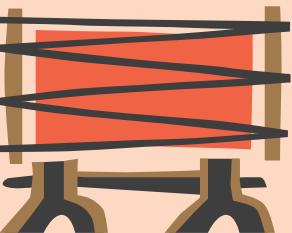


雅



樂

吉備楽
meets
オリエント!
2026.2.7

雅樂器^笙の
過去、未來
シルクロード
×カニササ
2026.2.23

異文化交流
「知らなかつた
あの国“ど出会う”

吉備楽 meets オリエント!

2026.2.7.土

時間 14:00-
会場 岡山市立オリエント美術館ホール
(岡山市北区天神町9-31)
入場料 無料(オリエント美術館の入館料要)

解説 四角隆二 (岡山市立オリエント美術館 主査学芸員)
演奏 吉備楽十六日会

お正月になると流れてくるあのメロディー。雅楽はなんとなく耳に残っているけど、あまり身近とは言えない音楽ジャンルのひとつかも。演奏に使われているのは笙や簫など、難しい漢字が並ぶ、なじみの薄い楽器たち…。意外かもしれません、雅楽器の多くは、サーサーン朝や新アッシリアといった古代西アジアにそのルーツがあります。一方、古代シルクロードを旅して伝わった楽器を合奏する雅楽は「世界最古のオーケストラ」。この雅楽をもとに、「吉備楽」は明治初期の岡山で産声をあげました。このイベントは、学芸員によるスライドレクチャーで古代オリエントの楽器の歴史を学び、「吉備楽」の奏でを満喫いただく、知的エンターテインメント。**雅楽器を体験する時間もご用意して、皆様のご来場をお待ちしております。**

岡山市立オリエント美術館 主査学芸員 四角隆二

兵庫県生まれ。青山学院大学大学院文学研究科史学専攻(考古学)博士後期課程中退。専門は西アジア考古学。これまでにシリア、イラン、パハレーン、ロシア沿海州等の海外考古学調査に参加。着任後、初めて担当した特別展「シルクロードの響き」(2002年)で、日本の伝統楽器の原点となった新アッシリアやサーサーン朝の楽器文化に触れる。

演奏 吉備楽十六日会

昭和27年(1952)に設立。初代吉備楽長 小野元範の命日が1月16日であることに由来。年に一度の総会(定期発表演奏会)のほか、様々な神事等で演奏・奉納を行っている。

吉備楽について

吉備楽は明治5年(1872)に雅楽を元にして岡山で創作された芸能音楽。岡山藩第10代藩主 池田章政の命を受け、楽人が大和国(奈良県)の春日大社へ「倭舞」「東遊」などの伝習に行き、岸本芳秀が創作。笙を主奏楽器、それに管楽器(笙・簫・横笛)や打楽器(太鼓・鉦鼓)を付物として演奏。同16年(1883)に神道黒住教の教楽に。古典音楽の「吉備楽」と、その曲に舞を振り付けた「吉備舞」があり、様々な神事等で演奏・奉納。古くは明治皇后・皇太后陛下への御前演奏に始まり、昭和天皇・皇后両陛下の、岡山御巡幸時における後楽園での演奏などを経て、海外でも公演を重ねて今日に伝承されている。



雅楽 笙

異文化交流
「知らなかつた
”あの国”と出会う

楽譜はない。指揮者もない。
でも、奈良時代から
ほとんど変わらない
不思議な音楽「吉備楽」や
雅楽器のルーツを知り、
未来へ続くまだ見ぬ
シルクロードの旅へ出かけましょう。



雅楽器 笙の 過去、未来 シルクロード ×カニササレ

2026.2.23(月・祝)

時間 15:00-
会場 岡山市立オリエント美術館ホール
(岡山市北区天神町9-31)
入場料 無料(オリエント美術館の入館料要)

解説 四角隆二 (岡山市立オリエント美術館 主査学芸員)
演奏 カニササレアヤコ
演目 ドビュッシー/月の光 ほか

雅楽では重音で合奏を支えることが多い「笙」。17本の竹を連ねるこの不思議な楽器のとりこになり、ついには、東京藝大の学生になってしまったカニササレアヤコさんをお招きました。なんと岡山初登場です!残響の美しさで定評のあるオリエント美術館中央ホールで笙や雅楽の魅力、雅楽に対する想いと演奏をたっぷり聞かせていただきます。学芸員四角さんによる、笙を深く学ぶミニ講座も開催。サーサーン朝(226~651年)の図像資料にも見られ、仏教伝来とともに日本に伝來した様子、現在はどの国どのようなシーンで演奏されているのか、などもご紹介いただきます。

知らない笙の魅力、現在進行形の雅楽を発見しましょう!

演奏 カニササレアヤコ

お笑い芸人・雅楽演奏家・ロボットエンジニア。日本の伝統音楽「雅楽」を演奏し、雅楽器の笙を使ったネタで芸人として活動するかたわら、人型ロボットなどのアプリ開発を手掛ける。早稲田大学文化構想学部卒業。現在東京藝術大学邦楽科雅楽専攻に在籍中。「R-1ぐらんぱり」「笑点特大号」などの番組に出演し、2022年にはForbes JAPANにより「30 UNDER 30(世界を変える30歳未満30人)」に選ばれている。



お問い合わせ : 086-224-1950
(岡山シンフォニーホール事業部)
主催:岡山市、岡山市立オリエント美術館、公益財団法人岡山文化芸術創造
おかやま文化芸術振興事業
Design by COCHAE